

白河の関を越えて

東北本線の白河駅から南方へ 3.5Kmほどのところに南湖公園がある。住宅地の広がり末端のような所にある、ひととき深い緑の塊が南湖公園という自然公園のような所がある。地図で見ると、大きな沼があって、その周囲の小山を含めて広い土地が公園となっている。地図を見ると目立つので気になっていたのだが、立ち寄ってみる機会が巡ってきた。

1801年、徳川八代将軍吉宗の孫で白河藩主だった松平定信が「士民共楽」の考えの基に造成したもので、「日本最古の公園」と言われている。白河から郡山にかけて、昔は湿地帯だったようで、大小の池や沼のようなものが至る所に存在する。沼を整備して多目的池とし、周辺の山を含めて公園としたもので、各種樹種が植栽されており、茶室「共楽亭」や庭園「翠楽苑」などが配されており、散策路もあり気軽に楽しむことができる。

南湖という名は李白の詩「南湖秋水夜無煙」から引用したという説があり、庭園造りにあたっては洞庭南湖の景観を意識したとも言われている。

沼の岸部に立つと、どこことなく国語の教科書に載っていた風景が感じられる。

沼の水は藤野川となって流れ出し、社川と名を変えたあともいくつかの流れを合わせて、水郡線の野木沢駅付近で阿武隈川に合する。南湖公園は付近の山から沼まであわせて 4.4ヘクタールの広さで、現代に至ってもなお市民の憩いの場として、観光スポットとして生き続けている。



南湖公園の南岸を南東に向かって走る国道 289 号線を進み、白河実業高校の角を右に曲がって県道 76 号線に入ると、景観はにわかに変り山間を縫うようになる。

阿武隈川の支流のそのまた支流の小沢が錯綜する穏やかな農村の風景の中を進む内に、いつの間にか周囲の山は海拔 500m を越えるようになってきた。280 号線と合流するとしばらくで、いくつかの小沢の合流点に広がる山中の平坦地になった。道路の左側に「白河の関跡」の表示があり、その奥には小山が控えており、右側には駐車場ときれいなトイレも建っている。

白河の関は、鼠ヶ関・勿来の関とともに、奥州への三関所に数えられている。五世紀前半に設置されたが、平安中期にはその機能を解消したと言われている。蝦夷（えみし）への対策として構えたものと考えられる。その後遺構も消滅しかかっていたところ、1800年に白河藩主松平定信が文献による考証を重ねた結果、ここに「白河の関」があったことが明らかになった。

1960年代になって大規模な発掘調査が行われ、竪穴式住居跡、掘立式建物跡などが確認され、土師器・須恵器・鉄など 8 世紀頃のものと思われるものが出土した。その結果、白河神社が建つこの地に空堀や土塁などの装備を持つ防御拠点の機能を備えた関所があったことがわかった。

正面の石柱に誘われるように中へ入って行くと、こんもりとした小山の中に一筋の石段が続き、その先の山頂のような所に白河神社が現れた。

白河神社は、西暦 300 年代（古墳時代）に白河国造と天大玉命を奉納し、勅命として鎮座したと言われている。前述の情報も合わせると、「白河神社の場所に関所の機能が付け加えられた」と読むのが正しいのかも知れない。



白河の関跡の前の道を南へ向かうと、海拔 450mほどの峠を越えて那須に入る。峠を下ると三蔵川に沿って伊王野の集落に下ることが出来る。

関跡の前の道を西に進み、海拔 471mの峠を越えると旧奥州街道と付記された国道 294 号線が、同じように奥州と那須とを結んでいる。峠を越えると奈良川に沿って下り、伊王野で前記の道と合する。国境の峠に、「境の明神」がある。奥州側に玉津島明神（女神）、那須側に住吉明神（男神）が祀られている。松尾芭蕉はこの道を越えて奥州に入り、白河の関にも立ち寄っている。

白河の関が出来た頃の奥州街道は前記の峠道で、江戸時代には後記の峠道だったのかもしれない。境の明神は「二所の関」とも呼ばれていた。

境の明神の北側にあった茶屋のあるじは盛岡（南部）の出身の人だった。盛岡藩主南部重信が江戸に向かう途中でこれを知り、茶屋のあるじとのつながりができた。そんなことから、盛岡藩お抱えの相撲取りに「二所の関」の名を与えたのが、相撲部屋「二所の関」の始まりらしい。

しばらく旅に出ていなかったもので、松尾芭蕉ならずとも風に誘われて旅立って見たくなくなった。

白河から会津に向かって一時間ほど入った所にある二岐温泉へ行ってみた。その帰り道、いつものように自宅に向かって何気なく車で走っているうちに、南湖公園・白河の関跡を見て峠越えをしてみたくなった。伊王野から那珂川に沿って下り、黒羽、那須国造碑がある湯津上を通過して矢板へ出て帰途についた。結果として、松尾芭蕉の「奥の細道」の逆を行くようなかたちになった。

広い関東平野を横切り奥州に向かって峠道を越える旅人のことを、少しばかり思い浮かべてみた。帰宅後、湯津上で買った「子持ち鮎の串焼き」と大田原の酒蔵で買った「天鷹」で旅の締めをした。

以上